

令和元年度第8回教育研究評議会議事録

日 時 令和元年12月18日(水) 14:30～16:21
場 所 事務局5階大会議室
出席者 石井、丹沢、木村、東郷、池田、手島、寺村、小谷、河合、笹原、白井、
日詰、田島、江口尚、熊倉、近藤、小西、田中、北村、川田、喜多、森田、
鳥山、江口昌、原、三村、澤田の各評議員
近藤満教授（朴委員の代理）
陪席者 鈴木、村松の各監事、宮原の各学長補佐

I 前回議事録の承認について

令和元年度第7回教育研究評議会議事録（案）を原案どおり承認した。

II 審議事項

1 新法人設立・大学再編について

議長から、新法人設立・大学再編について、資料1-1により、合意書締結後の会議等の開催状況、資料1-2により、第13回静岡大学・浜松医科大学連携協議会（令和元年11月25日）の報告があり、意見交換を行った。

<委員から出された意見等>

- ・ 鳥山委員から、連携協議会の資料5（議題5「県内の大学・自治体・経済団体等による連携体制の構築について」）は、部局で検討する際に大学の方針を知る重要な資料であるため提供いただきたいとの発言があり、議長から、部局長が出席するCOC+の会議で配付したので、確認いただきたいとの発言があった。
- ・ 近藤委員から、法人と大学執行部体制の議論の段取りについて質問があり、東郷委員から、法人運営検討専門委員会で法人の執行部体制と大学の執行部体制のイメージ図を議論し、各地区大学の大学運営検討専門委員会へ提示する予定であるとの発言があった。

議長より、本会議の前に教職員171名の署名による大学再編にかかる要求「静岡大学と浜松医科大学を浜松地区大学と静岡地区大学の2大学に再編する機関決定の凍結及び静岡大学将来構想協議会における再編案の白紙からの検討を求める要求書」を受け取ったとの報告があった。

《要求書内の要求項目》

1. 「2022年度を目指し静岡大学と浜松医科大学を浜松地区大学と静岡地区大学の2大学に再編する」という静岡大学の機関決定を凍結すること。
2. その上で静岡大学将来構想協議会において大学の再編案自体を白紙から検討し直すこと。
3. 学生・職員・教員はもちろん、同窓会、経済界、市民などのステークホルダーに対する合意形成と説明を行うため、静岡大学将来構想協議会は公開によって行うこと。

2 静岡大学全学教育科目規程の一部改正について

丹沢委員から、静岡大学全学教育科目規程の一部改正について、資料2により

提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

3 国立大学法人静岡大学における秘密情報管理に関する規則等の制定について

木村委員から、国立大学法人静岡大学における秘密情報管理に関する規則等の制定について、資料3により説明があり、意見交換を行った。

なお、議長から、本件は、部局に持ち帰り、検討いただき、次回の本会議で再度議論したいとの発言があった

4 「国立大学改革方針」を踏まえた国立大学との徹底した対話の実施に向けた調書について

議長から、「国立大学改革方針」を踏まえた国立大学との徹底した対話の実施に向けた調書について、資料4により提案があり、意見交換を行った。

なお、部局長から出された意見等については再度調整し、明日開催の役員会で審議し、文部科学省に提出することを承認した。

<委員から出された意見等>

- ・ 川田委員から、⑥「多様で柔軟な連携とネットワーク」の③(3)の「(ハ)工学系基礎教育の充実のため、工学部における1学部1学科制への移行と、学部・修士を接続する緩やかな6年一貫教育体制構築を、令和3(2021)年度に実現する。」とあるが、現在検討中なので、この表現はいかがかという質問があり、丹沢委員から「令和3(2021)年度実現を目指して検討する」に修正するとの回答があった。
- ・ 田中委員から、①「高度で良質な人材育成」の(徹底的な教育改革)①「数理・データサイエンス教育強化」の(2)の「企業や社会生活におけるデータ活用の実際についても扱い、産業界の人材や学内文系の教員などの参画による文理融合のプログラムとする。」については全学的な取り組みで対応いただきたいとの要望が出された。丹沢委員から、数理・データサイエンス教育強化に関しては、理学部以外にも学環と創造からも提案が出されているので、このような文言としたとの回答があった。
- ・ 田中委員から、①「高度で良質な人材育成」の①「文理横断・異分野融合」の(2)(イ)の「大学再編後の静岡地区大学における修士課程の大括り化について、再編2年後の令和4(2022)年度までに結論を出す。同時に、大学間協定を活用しながら、海外の大学との文理横断的な教育・研究の取組を進める。」についての令和4(2022)年度までの年度は正しいのかの問い合わせがあり、丹沢委員から令和6年度の間違いであるとの回答があった。
- ・ 田中委員から、①「高度で良質な人材育成」の④中央教育審議会大学分科会審議まとめ(以下略)の(4)の「また、大学再編後の理学研究科に文理融合の環境系の教育プログラムを導入し、人文社会知と理系の知の協働によるSDGs達成のための教育を強化する。これらの取組は、後者2つについては新法人設立・大学再編と同時実施を目指し、」とあるが、理学研究科に文理融合の環境系の教育プログラムを導入することに関してどういうコンセンサスが得られているのか確認したいという質問があった。丹沢委員からは、コンセンサスを得たものではなく、理学研究科に以前あった環境リーダープログラムの立て直すというアイデアがあり、未来社会デザイン教育研究推進機構を立ち上げるので、そこで環境リーダープログラムを復活することとなったならば、理学専攻の中に設置したいので記述したとの回答があった。これに対して、田中

委員からは調書に記述したならば、実現することになる可能性について質問があった。議長からは、文科省に対して、このような考えがあるということで、元々副専攻として設置されていたものなので、新規のものを設置するよりはハードルは低いだろうということで記述した、担い手の問題もあるので、この通りになるという保証はないとの回答があった。

- ・ 森田委員から、①「高度で良質な人材育成」の⑤社会の変化に対応し新たな価値を創造できる人材の養成の(2)の「地域フィールド科学教育研究センター農場及び演習林：文部科学省教育関係共同利用拠点」とあるが、農場では行っていないことと今の陣容では実施は困難であるとの意見があった。また、「未来社会デザイン教育研究推進機構」との連携の具体的内容について質問があった。丹沢委員から、未来社会デザイン教育研究推進機構の立ち上げ時にSDGsに関連した取り組みについて問い合わせたところ、農場から回答があったので記述したとの発言があった。これに対して、森田委員からは、文部科学省教育関係共同利用拠点の運用は農場ではなく演習林であるので、間違いないようにしていただきたいとの回答があった。また、森田委員からは、「未来社会デザイン教育研究推進機構」と「地域フィールド科学教育研究センター農場及び演習林」との連携については削除いただきたいとの要請があり、丹沢委員から考えるとの回答があった。議長からは「(農場及び演習林：文部科学省教育関係共同利用拠点)」を削除してはどうかという意見が出された。
- ・ 原委員から、①「高度で良質な人材育成」の④中央教育審議会大学分科会審議まとめ(以下略)の(1)の「浜松地区大学において、令和4(2022年度)から、総合科学技術研究科」の年度確認があった。これに対して、丹沢委員から、年度は希望であり、それより後の年度でも構わないとの回答があった。議長からは、当該箇所は卓越大学院絡みの内容であるとの回答があった。
- ・ 日詰委員から、①「高度で良質な人材育成」の④中央教育審議会大学分科会審議まとめ(以下略)の(3)「令和4(2022)年度までに、人文社会科学研究科に、地域のNPO法人や地方自治体の職員、教育関係に従事する人材をターゲットとした社会人教育プログラムを設け、地域課題解決に関わる人材を育成する。」及び⑤社会の変化に対応し新たな価値を創造できる人材の養成の(4)の「行政やNPO等で地域課題解決に取り組む実務者を対象とした社会人教育プログラムを地域創造学環所属の教員を中心に行政と協働して企画・展開する。特に、地域振興について県が重点的に取り組む伊豆地域における教育プログラム開発を優先し、令和2(2020)年度より遠隔授業システムやオンライン教材を活用してこれを試行する。その成果と課題を元に翌年度からのプログラム本格実施に繋げる。」とあるが、実施主体が複線化している。したがって、社会人教育プログラムをどちらかに一本化したほうが良いが、伊豆地域のサテライトとの関係を踏まえるならば、上記の④の(3)と⑤の(4)の文言を調整したほうが良いとの意見があった。丹沢委員から、⑤の(4)の後半は伊豆地域における教育プログラム開発をイメージして記述したものであるが、位置づけが分かるように該当箇所を修正するとの回答があった。

5 学生の懲戒について

寺村委員から、学生の懲戒処分について、別添資料(一部修正あり)により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

Ⅲ 報告事項

1 令和元年度第8回企画戦略会議（令和元年12月4日）報告

議長から、令和元年度第8回企画戦略会議(令和元年12月4日)について、資料5により報告があった。

2 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について

河合委員から、平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について、資料6により報告があった。

3 プロジェクト研究所の設置について

木村委員から、プロジェクト研究所の設置について、資料7により報告があった。

4 THE世界大学ランキング2020におけるSubjectランキングについて

東郷委員から、THE世界大学ランキング2020におけるSubjectランキングについて、資料8により報告があった。

Ⅳ その他

1 「静岡大学社会連携シーズ集2020ー」原稿作成依頼について

丹沢委員から、「静岡大学社会連携シーズ集2020ー」原稿作成について、資料9により依頼があった。

2 令和元年度学位記授与式及び令和2年度入学式について

議長から、令和元年度学位記授与式及び令和2年度入学式について、資料10により案内があり、部局長の列席、謝辞代表等の選出について依頼があった。

3 令和2年度主要会議開催予定表（案）について

議長から、令和2年度主要会議開催予定表（案）について、資料11により案内があり、各部局の行事等に照らし支障がある場合には連絡を願いたいとの発言があった。

4 令和2年度「成果を中心とした実績状況に基づく配分」に用いるデータ等の提出について

手島委員から、令和2年度「成果を中心とした実績状況に基づく配分」に用いるデータ等の提出について、席上配付資料により説明があり、文部科学省へは12月20日までに提出し、提出したデータは、次回の企画戦略会議及び本会議で報告するとの発言があった。

以上